



日本アンデス調査60周年記念シンポジウム

日本アンデス調査団と 山形大学ナスカ・プロジェクト



2018年 **6月23日** [土] 13:00 ▶ 16:30

開催
場所

山形大学 人文社会科学部 1号館
3階 301教室

●一般公開(参加無料/申し込み不要/定員200名[先着順])



○山形駅東口より東方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁行きバスで約5分…南高前(山大入口)下車10分○仙台駅より山形行き高速バスで約60分 南高前(山大入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平日80便、土日・祝日66便運行しています。

主催/山形大学 共催/国立民族学博物館

協力/古代アメリカ学会、山形大学ナスカ研究所、アンデス文明研究会、一般社団法人 希有の会、埼玉県ペルー友好協会



コトシュ遺跡の交差した手のレリーフ写真
東京大学アンデス調査団(1960年)

日本アンデス調査60周年記念シンポジウム

日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト

1958年に日本人によるアンデス考古学調査が開始されてから、今年で60年目を迎えます。現在、日本人研究者を中心とする多くの考古学プロジェクトがペルー各地で実施され、その成果は国際的にも大きな評価を得ています。とりわけ、2004年に開始された山形大学によるナスカ・プロジェクトでは、新しい地上絵の発見、発掘調査によるナスカ社会の解明など、数々の重要な成果がありました。さらに2012年には、ペルー共和国ナスカ市に山形大学ナスカ研究所が開設され、研究・教育・地上絵保護の拠点となっています。このシンポジウムでは、同プロジェクトの最新成果についてもご報告いたします。

プログラム

- 13:00～13:05 シンポジウム趣旨説明 井口 欣也(埼玉大学)
- 13:05～13:20 「日本アンデス調査の60年とこれから」 大貫 良夫(野外民族博物館/トルワールド館長・東京大学名誉教授)
- 13:20～13:45 「日本のアンデス調査の継承と発展—パコパンパ遺跡の発掘」 関 雄二(国立民族学博物館)
- 13:45～14:25 「日本調査団の歴史と山形大学ナスカ・プロジェクト」 坂井 正人・山本 睦・松本 剛(山形大学)
—休憩—(14:25～14:35)
- 14:35～15:50 「山形大学ナスカ・プロジェクトの研究成果とナスカ研究所」
・研究成果発表①「ナスカ地域におけるミドルホライズンの展開」 松本 雄一(山形大学)
・研究成果発表②「ナスカ地域における古食性調査」 瀧上 舞(山形大学)
・研究成果発表③「ナスカの地上絵はどこまで解明されたのか」 坂井 正人(山形大学)
・質疑応答
—休憩—(15:50～16:00)
- 16:00～16:10 報告「山形大学のアンデス諸国における教育活動—世界展開力事業による活動の紹介を中心に—」 土井 正樹(山形大学)
- 16:10～16:20 「山形大学ナスカ・プロジェクトへのコメント」 青山 和夫(茨城大学)
- 16:20～16:30 総括コメント 加藤 泰建(埼玉大学名誉教授)